

平成 29 年度 研究功労賞推薦書

受賞対象者 鶴 紀子 先生

鶴先生は現在、非常勤医師として高宮病院に勤務されております。先生は1965年3月に鹿児島大学を卒業され、東京大学附属病院での1年間の臨床研修を経て、鹿児島大学大学院医学研究科に入学されました。1970年に終了され、医学博士号を取得されております。同年、神経精神科助手に採用され研究者としての道を歩み始めました。1974年には米国シカゴ Rush Medical College 講師を併任し、1976年から鹿児島大附属病院講師に昇任されております。翌年の1977年には宮崎医科大学附属病院講師に転任され、1993年に同大学医学部精神医学講座助教授に昇任されております。1995年には教授（心理学）に就任され、2005年には大学の改組により宮崎大学医学部機能制御学講座心理学分野の教授として学生教育、てんかん研究、臨床で活躍されてきました。研究では主に神経生理学的手法を駆使し、とくに Kindling を用いた研究で、先生は一貫しててんかんの病態理解を追及され、確実にそれを進展させました。研究成果は Epilepsia、Epilepsy research などに掲載されておりますが、これらは大きく1) 二次性てんかん原性焦点形成に関する研究、2) 扁桃核キンドリングにおける小脳歯状核の役割に関する研究、3) グルタミン酸トランスポーター欠損マウス (GLAST-KO, GLT1-KO マウス) のキンドリング形成発達の研究に分けられるかと思えます。いずれの研究成果も臨床てんかん学へ還元可能なことが注目されます。

また、比較的新しい大学にあって鶴先生は研究環境の整備を行いつつ、新たな研究課題を追求し、優秀な若手の育成にも努力され、先生のてんかん研究への強い意欲とてんかん学の進歩へ向けた努力を感じます。

一方では、てんかん治療研究振興財団へも大きな貢献をされております。2006年から現在まで財団の評議員をされ、研究褒章審査委員長、臨時企画委員、研究報告会では座長、代表世話人等を勤められておられます。

鶴先生は2006年に大学を定年退職され、宮崎大学名誉教授を授与されました。2006年から九州保健福祉大学社会福祉学部特任教授ならびに大学院担当指導教授として、2011年の同大学定年退職まで、てんかん研究とともに教育にも積極的に携われてこられました。先生の学会、財団の研究報告会などでの適切で鋭い質問は、尽きないてんかん学への先生の関心を示しているものと考えます。このように、現在の日本てんかん学を育ててこられた重要な指導者のお一人である鶴先生を研究功労賞受賞者に推薦いたします。

弘前大学 名誉教授

北東北てんかんセンター センター長
兼子 直